

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本RNA学会	8
日本ウイルス学会	6
日本薬学会	4
日本細菌学会	3
日本動物学会	3
日本農芸化学会	3
日本がん分子標的治療学会	2
日本バイオインフォマティクス学会	2
日本再生医療学会	2
日本人類遺伝学会	2
日本農芸化学会、酵母遺伝学フォーラム	2
日本病理学会	2
SfN	1
アメリカ細胞生物学会	1
エピジェネティクス研究会	1
エピジェネティクス研究会	1
血管生物医学会	1
実験動物学会	1
小児科学会 日本内分泌学会 日本小児内分泌学会 糖尿病学会 骨代謝学会 肥満学会	1
植物生理学会、植物細胞分子生物学会、作物学会、大気環境学会	1
神経化学会、北米神経科学会	1
蛋白質科学会 生物物理学会 日本薬学会	1
糖尿病学会、内分泌学会、肥満学会	1
動物学会、蚕糸学会	1
日本RNA学会、日本化学会	1
日本RNA学会、日本エピジェネティクス研究会	1
日本RNA学会、日本ミトコンドリア学会	1
日本RNA学会、日本核磁気共鳴学会他	1
日本RNA学会、日本進化学会	1
日本RNA学会、日本進化学会、日本動物学会、生命の起原及び進化学会、	1
日本アレルギー学会日本血液学会	1
日本ウイルス学会、日本薬学会	1
日本ウイルス学会、細菌学会東北支部会	1
日本ウイルス学会、日本再生医療学会、日本エイズ学会	1
日本ウイルス学会、日本獣医学会	1
日本エピジェネティクス研究会、日本再生医療学会	1
日本ゲノム編集学会	1
日本ストレス学会	1
日本バイオインフォマティクス学会、生き物文化誌学会	1
日本ホスファターゼ研究会	1
日本ミトコンドリア学会	1
日本遺伝子細胞治療学会・日本再生医療学会・日本解剖学会・ISSCR	1
日本栄養・食糧学会	1
日本解剖学会	1
日本解剖学会、日本神経内分泌学会、日本組織細胞化学会	1
日本環境変異原学会、米国環境変異原ゲノミクス学会	1
日本基礎老化学会日本薬学会	1
日本機械学会、バイオマテリアル学会	1
日本結晶学会、日本蛋白質科学会、日本化学会、日本薬学会	1
日本血液学会	1
日本血液学会、国際幹細胞学会	1
日本血液学会、日本ウイルス学会、日本小児学会、日本小児感染症学会	1
日本血管生物医学会	1
日本血管生物医学会、アメリカ細胞生物学会	1
日本原生生物学会、日本藻類学会	1
日本再生医療学会、日本遺伝子細胞治療学会	1
日本細胞性粘菌学会	1
日本産科婦人科学会、日本基礎老化学会	1
日本脂質生化学会	1
日本時間生物学会	1
日本質量分析学会	1
日本実験動物学会	1
日本実験動物学会、日本ウイルス学会	1
日本実験動物学会、日本実験動物技術者協会	1

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本獣医学会	1
日本循環器学会	1
日本循環器学会英国発生生物学会	1
日本植物学会、日本植物細胞分子生物学会	1
日本植物細胞分子生物学会	1
日本植物細胞分子生物学会、日本育種学会、日本生物工学会	1
日本植物細胞分子生物学会、日本農芸化学会、ユークレナ研究会	1
日本進化学会	1
日本進化学会、日本数理生物学会	1
日本水産学会、日本農芸化学会、日本藻類学会	1
日本生物工学会、極限環境生物学会、	1
日本生物工学会日本バイオマテリアル学会	1
日本生物高分子学会	1
日本組織培養学会、日本がん分子標的治療学会、日本再生医療学会、日本基礎老化学会、	1
日本体力医学会、日本運動生理学会	1
日本蛋白質科学会	1
日本蛋白質科学会 日本結晶学会	1
日本蛋白質科学会、日本ゲノム微生物学会、極限環境生物学会	1
日本電気泳動学会	1
日本土壌肥料学会、日本農芸化学会	1
日本動物学会、日本解剖学会	1
日本動物学会、日本動物細胞工学会	1
日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会	1
日本内分泌学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会	1
日本農芸化学会、日本育種学会など	1
日本農芸化学会、日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会	1
日本農芸化学会、日本再生医療学会、日本ゲノム編集学会	1
日本農芸化学会、日本生体防御学会、日本エピジェネティクス研究会	1
日本農芸化学会Pacon 国際学会 その他多数	1
日本農芸化学会日本ビタミン学会日本栄養・食糧学会	1
日本繁殖生物学会	1
日本繁殖生物学会、日本獣医学会、日本毒性学会、日本内分泌学会	1
日本繁殖生物学会American Society for Cell Biology	1
日本比較内分泌学会、日本動物学会、日本血管生物医学会	1
日本病理学会、日本サイトメトリー学会、日本ヒト細胞学会、日本臨床細胞学会	1
日本病理学会、日本胃癌学会、日本消化器癌発生学会	1
日本物理学会、Biophysical Society	1
日本放射線影響学会	1
日本放射線影響学会日本基礎老化学会	1
日本薬学会日本薬理学会日本血管生物医学会日本肥満学会	1
日本薬理学会 Sfn	1
日本薬理学会、日本生理学会	1
日本薬理学会、日本精神神経薬理学会、日本薬学会	1
農芸化学会	1
分子標的治療学会	1
北米神経科学会	1
北米神経科学会、日本薬理学会、日本皮膚科学会	1

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	著者索引は無くてもいいのでは。PC等での検索が可能なのだから。
※	スケジュールだけ載っている小さいメモ帳サイズのものはいませんが、カードホルダーに入れている人がいて、便利な大きさだとは思いました。
※	冊子印刷版の簡易版(薄いもの)があると便利。
※	会場マップだけを簡略化した小冊子の導入はとても良かったと思います。
※	プログラムよりもノートが欲しい。
※	「Timetable & Map」は、ネーム・カード・ホルダーにも入れることができ、良かった。
※	アプリをより使いやすくして冊子をなくすようにすると環境にやさしい学会ができるのではないかな。もしくはPDF版がDLできるようにする。紙を使わない、または減らす方向が良いと思う。
※	A5が悪いわけではないが、A4にして厚みが薄い方が、会場で片手で開いて読みやすい。
※	直前にチェックするのに便利だった。当日はもっぱらiPadでチェックした。
※	もし、A4判にして、薄くなるのなら、その方が持ちやすくて良い。字は小さくても良いので、薄いものが良い。
※	従来の要旨集が良い
※	ペーパーレス化は賛成だけど出張報告があるので何かしらのプリントページは必要かと。
※	薄くて小さいダイジェスト版素晴らしかったです。
※	冊子にもう少しメモを出来るスペースを作っていたいただけるとなお良い。
※	素晴らしいバランスでした
※	紙は同封されていたスケジュールと会場のまとめのパンフレットだけで十分です。
※	開場で配られた、ポケットサイズに物がネームカードに入る大きさにしてもらえると持ち運びに便利
※	アプリを使用したので、冊子は利用しなかった。
※	メモする箇所だけ増やしてほしい
※	A5のサイズの方が持ちやすくて良いのですが、文字がもう少し大きいと見やすく助かります。
※	索引部分の文字は薄くて暗い会場だとよく見えなかった
※	軽いのは楽だが、視力低下が激しい年齢になってきました。結局活用できていません。
※	オンライン版(PDFファイル)で会員に配布するだけで充分であると思います。
※	特に携帯する必要はなかったので参加者としては概要が確認できればどうでもよかった。アプリを充実させて欲しい。
※	B5版にして多少なりとも薄くなった方がいいかもしれません
※	薄い会場案内が付いていたのが非常に良かった。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ITシステムは使いませんでした。年寄りですし、プログラム集冊子が十分に使いやすかったので、特に不便は感じず。
※	参加していないため使用しておらず、無回答でお願いします
※	会場のネット接続が不安定で、抄録を開けない会場があった。接続アンテナの本数が少ないのでは？
※	講演要旨のpdfは一括ダウンロードもできるとよいと思う。
※	本の方が使いやすい。その代わり1日ごとに切り離せるようにして欲しい。
※	アプリが不安定。マイスケジュールに登録したポスターの、マップ上の位置も示すと会場を何度も往復しなくて済むのに。
※	「いいね」やマイスケジュールに入れた人数の表示などは不要
※	「会場ナビ機能」って何ですか？そのような機能があるのだったら使ってみたかったです。
※	通信速度が遅かった
※	いいね、がいかされていない。
※	はじめから使う気になれなかった。使いづらそうであった。
※	各演題要旨やスケジュール等をevernoteやdropbox等に連携できるようにしてほしい。要は、欲しい情報に素早くアクセスできるアプリに徹し、その情報は確認が使いやすい形で利用できるようにすればよい。使うスタイルは万人が満足するものをアプリで実現することにこだわらないほうが良い。ポスター発表者は、SNS機能を利用して所定の時間以外にもポスター前で対応する時間を発信できるようにして、実際にそうした対応をしてもらえると助かります。
※	「会場ナビ機能」の存在を知らなかった。「参加者・発表者検索」で検索した発表者の発表にもリンクが欲しかった。
※	「SNS機能(参加者⇄発表者)」はどれくらい使われているのですか？
※	会場を探すと元のページ(プログラム内容)に戻れないのが非常に不便だった。また、発表内容から飛んで会場を矢印で示して欲しい。結局自分で探さなくてはならず、時間がかかる。演題とメモをまとめてメールなり外に保存する方法があるとありがたいと思った。今回は使わなかったので実装済みだったらすみません。これがあればスマホだけを持ち歩けば良いのでありがたい。
※	検索ではなく、プログラムと要旨の全部をPDFでダウンロードできる様にしてほしい。特定の分野ではなく要旨を全部ざっと読みたいため、これがあれば冊子体はなくてもよい。
※	「気になった演題・ポスターにマークを付ける」(事前、事後含めて)というおりの機能がなかったため、そのかわりにマイスケジュール機能を使ったところ、マイスケジュール本来の機能が使いにくくなった。なお、「気になった」=気に入らない(科学的な意味で)もあるので、「いいね」では決してない。システム設計者はそのあたりを理解しているか？
※	「いいね！」機能により、発表者のモチベーションが上がるとの見解ですが、「いいね！」がゼロの場合には、逆にモチベーションが下がるとは思いません。今後はこの機能をなくすか、あるいは、「いいね！」を公表するのではなく、つけた本人だけが見れるように改良したほうが良いと思います。
※	あまり必要性を感じなかったため、未使用のまま参加しました。
※	(この項に書くのが適切かどうかはわかりませんが)発表会場内でWiFiが使えたら、より良かったです。
※	不要。経費を節約して下さい。
※	会員に関しては、参加登録をしていなくても見られるようにしてほしい。(事前参加登録を忘れたため、当日までプランニングができなかったため)
※	要旨の検索にあたり、本来あるべき要旨が検索できない、発表者が検索しても出てこない等、システム的な問題があったように思う。
※	会場によってはwifiのアクセス状態が悪いので、要旨の検索閲覧などはスタンドアロンで使えた方がよい。勿論、オンタイムで情報のやり取りができるのは便利であった。他方、アプリの方では、アイコンのシンボルが必ずしもself-explanatoryではないにも関わらず、意味を示す文字が小さく、扱いにくい。使えないシンボルは不要である。
※	全て選択ボタンが欲しかった
※	アプリで発表ごとに記録した「メモ」が、Web版には反映されないのは、あとでメモをまとめるときに非常に不便だった。
※	使用しなかった
※	マイスケジュールでプログラムを見ると、セッション毎に表示できるようにして欲しい。時系列のみで表示すると、異なるセッションの講演が入り交じることになり、見にくい。
※	スマホのアプリの一部がしばしば機能しなかった。
※	メインスケジュールとポスタースケジュールが分かれているのが意味不明。検索後、なぜかタイトルだけのページをワンクッション置いてからアプストが見れる遷移が無駄。
※	演者検索が日本語、英語でどちらでも検索可能だとより便利と思う。
※	会場内でLAN接続が不可であったのは不便。スマホがあれば良いかもしれないが、
※	要旨のPDFへの書き出しと印刷が便利だった。
※	発表者検索で全ての発表が引かからなかったことが使いにくかった。
※	iPadにダウンロードしたが使わなかった。
※	使わなかった。
※	ほとんど利用しなかったため評価はパスします。
※	会場全体の地図がない。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	素晴らしいアプリだと思います。是非フリーで公開して、日本の学会のスタンダードにして欲しいと思います。毎年、各学会の担当研究者が毎年膨大な時間とコストを強いられているのが現状で、日本の科学にとって大きな損失です。以前はWEBブラウザ版のみでしたが、アプリ化することでオフラインでの利用が出来るのが良かったです(iPadなどWiFiしか使えない端末で有効)。
※	事務手続き提出用に印刷できる、タイムテーブルとプログラムが冊子と同じような形のPDFファイルがほしいと思いました。
※	タイトルとキーワードからだけの検索であると網羅性が低いので、可能であれば要旨本文も検索対象に入れて欲しい。
※	演題から、会場の場所や目的のポスターの場所にリンクできるようにして欲しい。
※	スマホからの検索が使いにくかった
※	演者で検索したその結果から、マイスケジュールに登録できなかった。マイスケジュールの表示順がよく乱れるバグがあったように思う。
※	使用していません
※	個別演題のサイトに入らないとマイスケジュールに入れることができない
※	今回のアプリは非常に使いにくかった。各発表からシンポジウム全体へのリンクがなかったから？あったのに気付かなかったのかもしれませんが、少なくともすぐには分かりませんでした。これまでとは開発元の違うのですか？
※	経費とのバランスで考えて欲しい
※	ガラケーなので、会期中は使用不能。
※	使っていない。
※	オンラインでの使用は可能性があり支持するが、毎回アップデートを、要求されるのはわずらわしかった。snsも今後に期待。
※	マイスケジュールが時間別にカレンダー上に表示できると視認性が上がってありがたいのですが。
※	全体的には良かったが、スケジュール一覧でシンポジウムとポスターを分けず、1日分をまとめて1つのページから詳細に飛べるようにしたほうが良いのではと思う。
※	ポスターの一覧から各ポスターの詳細に飛んでから一覧に戻ると、一覧の先頭に戻ってしまい、見たところまでスクロールし直さなければならず、使いにくかった。
※	会場のネットワークが全く繋がらなかった。改善を求めます。
※	会場でのWiFiが混雑していて、使えなかった(意味がない…)
※	企業ブースを探すのが難しかったので、もう少し工夫があるとよかった。(工夫と言っても具体的なイメージはついておらず申し訳ございません)
※	スマートフォン、Padのアプリだけでなく、コンピューターからの検索や閲覧もソフトなどでもっと簡単にできた方が便利です。
※	検索して出た演題をスケジュールに入れたかったが出来なかった。
※	閲覧できる期間が限られていたため過去の年会で作成したメモ等にアクセスできなくなってしまった。メモ等をバックアップできたらよかった。
※	共有を選択できるような設定だったのが良かった。前回この機能の選択ができなかったのが不満であったが、改善され、今回は使いやすかった。pdf一括ダウンロードも便利だった。アプリのデータの更新も前はフリーズするなど邪魔だったが、今回はスムーズで、使いやすかった。今回の方法で続けて欲しい。

## 質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	参加していないため使用しておらず、無回答をお願いします
※	あまり必要性を感じなかったので、未使用のまま参加しました。
※	使用していない
※	学会開催前の検索にWEBシステム、開催中はWEBシステムで作ったマイスケジュールをアプリで使用した。
※	不参加
※	聞きたい演題を絞り込んでいたこともあり、要旨のプリントアウトを持参した。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている記述
※	シンポジウム全ての傾向として、今回は特に、取り扱う領域が狭くなりすぎた感じがあった。オーガナイザーの研究の特色を出すのも良いが、その領域を代表しているとは言い難いオーガナイザーが選ばれている指定のシンポジウムのような場合では、特に発表や議論が盛り上がらない雰囲気が出ていた。
※	テーマ及び人選が偏っているように感じた。同じ人が、違い学会で何度も話しているように思う。
※	テーマ自体に偏りは無いが、スケジュール上で同じようなテーマが固まってあるため、聞きたいのに聞けないシンポジウムが多かった。
※	11月30日の午前中に用務がある関係で、初日の〇〇〇氏の話の聞くことができなかつたのは、とても残念だった。
※	同じようなテーマが複数あるような気がしないわけでもない。
※	毎回、毎回、同じ人が行っている。科研費の領域で固まっているのもあり、業績稼ぎにしか見えない。
※	偏っている上に、数が多すぎると思う。同時進行で分散しすぎている。だったら、分子生物学会に来ないで、個別の専門的な学会に行ったほうが、よほど密度の濃い議論もできるし、十分に発表もきけると思う。トピックを聴くための学会ではなく、「とりあえず発表」するための学会、になってしまったんだな、と実感した。
※	幾つかのシンポジウムは内容的にオーバーラップしている。これらをまとめて、シンポジウムの数を減らす方がよい。
※	今回のシンポジウムは、全般的に扱う研究領域が狭い感じが否めず、指定シンポジウムであっても、オーガナイザーがその研究領域を代表しているとは言い難いセッションもあり、面白いと思えるプログラムが少なかった。
※	同じカテゴリーのセッションが多数同時刻に開催されていた。テーマが偏っているためではないか？
※	いつも似たような面子が揃っていて意外性がない。
※	今回新しい方もいるが、やはり同じ方が話している印象は否めない
※	難しいのかもしれませんが、医学系に偏っているように感じました。
※	毎回、同じ人およびその人の関係者の内輪で行われている。
※	プレナリーにそれほど興味を持てなかつた。逆に見たいシンポジウムが重なっていたりした。
※	モーニングセミナーには興味がわかなかつた。部屋によっては、スライドの表示場所が下の方で、後ろの方の席からはスライドの下の半分が見えない。もう少し上に表示できないか。廊下にモニターを出していた部屋がいくつかあつたが、満席の部屋では立ち見もできなかつたので、廊下にモニターが出ていると助かる。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	重厚なシンポジウムが多かったので、軽めのワークショップもあればいいと思った。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	例年と同じようなタイトルのセッションが、同じような座長(グループ)によってオーガナイズされているように見える部分がある。そのようなセッションでは同じような演者(座長自らを含む)が選ばれがちであるが、今回は「公募演題」も採用されたことで演者の顔ぶれに少しは多様性が出たのが良かった。しかし、全般的には公募枠は非常に少なく、もう少し公募枠を増やしても良いのではないかと思う。
※	下手くそな英語で無理に発表しなくても、日本人は日本語で話したほうが良い。同時通訳を導入すれば良い。
※	どちらのシンポジウムを聞きに行くかという葛藤が毎回ある。講演を録画しておいて、一定期間(1週間くらい)ウェブ上でみることができたらうれしいのだが、、、
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	内容が被るシンポジウムの平行開催が多く、参加中戸惑った。もう少し、配慮されることを希望する。
※	重複したテーマがいくつかあったように思います。もう少しテーマを集約したほうが良いように思いました。
※	シンポジウムの内容について十分に考慮した上で会場の大きさを決めて欲しい。満員で入れない会場もあれば、半分以下しかひとがいらない会場もあった。
※	一般演題からの採択枠が小さすぎた。ポスター発表にレベルの高い発表がたくさんあったが、とても回りきれなかった。
※	近隣諸国からも世界をリードする論文が出ている。年齢/身分にこだわることなく筆頭著者を招いたらどうだろうか。
※	流行りがあるのは仕方ないが、テーマをもう少し増やして欲しい。また、思っていた以上に医学系やトランスレーショナルな方向の研究が増えたと思われるが、これらに特化してゆくのではという不安がある。
※	生化学会と合同にならなかった事で、分子生物学会らしい良いテーマがそろっていました。
※	不参加
※	関連シンポジウムが同日に並び、聞きたいものをどちらしか聞けない状況があった。
※	プレナリーレクチャーの時間帯を昼間にして、多くの人に参加できるように広い会場で実施して欲しい。
※	シンポジストが友達同士で質疑応答でもワイワイと内輪で盛り上がっている感が強かった。自然と英語もスピートが上がりがり、聞かせる英語ではなかった。

質問9. シンポジウムの使用言語について（その他）

回答者番号	その他記述
※	参加したセッションでは日本語質問可というアナウンスはなく、このアンケートで初めてしりました。各セッションでアナウンスしていただけるとよいと思います。やはり現状では英語オンリーでは質問者が限られてくると思います。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	日本の学会なので、日本語も「臨機応変に」取り入れるべきと思う。国際化はたいへん重要であるとしても、日本語のサイエンスが失われないような環境も大切と思う。
※	下手くそな英語で無理に発表しなくても、日本人は日本語で発表したほうが良い。同時通訳を導入すれば良い。
※	深みのあるディスカッションという大義名分のために、英語しか分からない人たちを置いてけぼりにするのは如何なものかと思いました。
※	日本語も可はせっかく英語でやるのに意味がない。そしてすべて英語にすべき。
※	日本人の発表を日本人が聴いてディスカッションする場合は、日本語がいちばんだと思う。
※	日本人の参加者が圧倒的に少ないにもかかわらず、英語のセッションがあるのは不満。日本人の下手くそな英語は聞きたくない。英語はスピーカーが外国人のときだけでよい。サイエンスは何語でも出来る。言葉のトレーニングは他のところでやるべき。ともかく多くの人に研究の内容を理解してもらうことが最も重要。
※	わたしは困らなかつたが、参加したシンポジウムの講演者のスライドが日本語であるケースが多かつた。英語で準備するよようにとの周知が不十分だつたと思われる。
※	外国人のいないセッションは日本語で十分。そのほうが、ディスカッションしやすい。
※	無理に英語のセッションにする必要は感じない
※	議論を深めなければ日本語だと思ふ。発表の場とするなら英語で良いと思ふ。
※	日本語は日本人には判りやすいが、どうしても聞きたいと思ふ海外からの方にはスライドだけでも英語であれば良かったと思ふ。
※	幅広い分野を取り扱う学会なので完全日本語が望ましい。
※	「日本」分子生物学会なのだから、使用言語は日本語でいいのではないのでしょうか。英語を使うと、投稿前の生データを出しにくくなります。
※	私は米国に10年間留学してましたので、そこそこ英語は話せますし、理解できます。ただ、日本人の英語をずっと聞いてると、どうしても疲れてしまいます。外国からのspeakerを招いたセッションでは英語にすることは当然とは思いますが、日本で開催される国内学会ということ考えると、今後は全面的に英語、とならない方が良い気がします。その意味で今回の趣旨は妥当であると思ひます。
※	英語では十分に議論できない。先人達の翻訳のおかげで日本人は日本語で学問を深めることができた。それが現在のノーベル賞の授賞につながっている。母国語で学問ができない国では学問は深まらない。
※	全部英語で出来たら一番良いが、議論できないことには仕方ないので日本語も可は妥当。
※	日本語を理解できない聴衆もいるので、英語のセッションは質疑応答も含め英語で行った方が良いと思ふ。
※	国際化を意識するならば、公用語は英語に限定すべき。
※	そこまで英語を推進する必要は感じられない
※	結局細かいことは日本語でないとわからないので、日本人同士の質疑は日本語が良いと思ふ。大雑把な英語で話されても質問の意図がわからないことがある。
※	日本語での発表は海外からの参加者を妨げる壁になっていると思ひます。これだけ大きな学会なので困難は伴うでしょうが、ぜひ発表の英語化を進めるべきだと思ひます。
※	言語は指定せず、日本語・英語どちらでも発表者の自由にした方が良くと思ひます。
※	日本語で深いディスカッション出来る学会が少なくなつていく中、分子生物学会が日本語可とする意義は大きいのでこれからも続けて欲しい。
※	英語セッションと日本語セッションの分類が明確でなく、緩やかな国際化を考えれば英語セッションは必要であるかもしれないが、基本的にセッションそのものは日本語の方が良い気がする。ただし昨年度までと比較して、今年度は日本人スピーカーの英語力が高く大変わかりやすいセッションが多く見受けられた。
※	参加者の大部分が日本人であるのに、英語セッションが増えて行くのはいかがなものかと思ひます。
※	外国からの発砲者がいる場合には、しかたがない場合をのぞいて日本語でのdiscussionは外国からの発表者に失礼に当たると思ひます。
※	不参加
※	日本語でも可と言ってもその場の雰囲気によって日本語での質問はやりづらいことがある。セッションによってどちらかにすべきでは。
※	英語強制は必要はない。
※	日本での学会を英語にするメリットはそんなにない。学会は情報交換の場でもある。外国語では情報を共有しにくく、理解も深まらない。
※	さらに日本語を増やしたほうがよい。
※	質問者の英語が演者に十分理解されていないことがあつたが、演者への援助がなく、ディスカッションが十分でなかつた印象があつた。日本語も可となつていたことは知らなかつた。
※	公用語を英語にするsessionも必要である。
※	座長が英語に当時通訳していたのなら問題はない。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者番号	その他記述
※	以前のように偶数奇数と分けないと、自分の発表で終わってしまい、自分が聞きたい他のポスターを訪れることができないのでは？
※	プログラム編成がうまくできていて、ストレスが少なかったです。ポスター会場も時間がたっぷりしていて、よかった。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	19のセッションが同時進行しましたから聞きたいセッションを聞くことができませんでした。
※	ポスターセッションは時間になっても参加者の協力がなく、てんでに質問している状態が続き、座長を置く意味がない。座長がセッションだというとポスターからは参加者がいなくなってしまう、発表者と座長の二人で会話するかたちになった。他の学会ではこういうことは皆無なので極めて奇異に感じた。座長を置いたポスターセッションの時間を取る必要はないのではないかと思った。
※	相変わらず関連性の高いテーマが同日同時間帯にくまれているので、解消に努めて欲しい。また、口演内容がポスターで発表される場合は、同一セッションのものはポスターでも全て同じ日にまとめてもらいたい。
※	奇数、偶数のコアタイムが欲しい
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	なかなかプレゼンターをつかまえられないことも多い。
※	仕方の無いことだがグラントが当たっていると思われる研究分野のセッションが異常に多いと思った。時流に乗るのも必要だが、継続的な議論を行う場も確保して欲しい。
※	日程上仕方ないと思うが、聞きたいセッションが並列で行われている場合が多かった。
※	ポスターセッションは、偶数/奇数の区別がなかったため、また、発表者が立つべき時間帯が明確でなく、一部に混雑や混乱を生じていました。従来の形式のほうが良かったと思います。
※	ポスターセッションを長くすべき。会場の問題は理解できるが、複数日に渡って掲示して欲しい。口頭発表者にもポスターを掲示させて欲しい。聞きたいセッションが重なることが多いため。
※	ポスターの発表の時間がズレてなかったので各日の1セッションしか参加できないのが残念。
※	4日間でもよかったのでは
※	最終日は早目に終了してほしい
※	横浜開催の場合に3日間となり、神戸の開催の場合に比べ1日短い。3日間の開催ではどうしてもスケジュールの編成が難しくなると思います。
※	ポスターが多すぎる。短時間でも学生には口頭発表の機会を与えるべきです。
※	ポスターセッションの時間(2.5時間)は悪くない長さだと思ったが、通常申込みの発表者も偶数・奇数へ分けた方が良い。
※	学会の科学的レベルは一般演題の質および量で決まると考えているので一層充実させる努力が求められていると思う。
※	従来の4日間の開催の方が余裕があって良かったと思います。
※	午前中1つ、午後1つで時間も適当だった。ポスターがゆったりしていたと思う。
※	以前のようにポスターのコアタイムは奇数と偶数で分けたほうが良い。そうでないと、発表者は同日の他のポスター発表者とディスカッションする時間がとれない。
※	多数会場での同時進行と研究領域の多様化から、同一時間帯に近い分野のシンポジウムが同時進行してしまうことはやむをえないが、来年度以降、この点については再考して可能な限りベターな振り分けを望む。
※	3日間には演題数から見ても無理がある
※	三日間にしたのはよかったが、最終日に夕刻までかかったのは参った。地方からの参加者はその日のうちに帰れないこともある。最終日はもっと早く終了すべき。
※	ポスターセッションの進行が分かりにくかった。
※	不参加
※	奇数偶数などで隣り合うポスターのコアタイムをずらして欲しい
※	ポスター発表だけの時間枠を設定した意味は大きいと思います。一方、学会の本筋論として、シンポとワークショップが毎年多すぎるので、選別すべきではないか。
※	聞きたいシンポジウムが同時時間にあることが多く、聞き逃すものが多かった。
※	例年より学会の日数が少なかったため、詰め込まれているような感じだった。
※	奇数・偶数の枠がなかったため、同日のポスターを聴きに行けなかった。
※	ポスター発表の開始時間や長さはちょうどよかった。
※	例年通り発表する時間を二つに分けてほしい。発表しているとほかの人の話を聞きに行けない。
※	もっと口頭発表を増やして欲しい。
※	ポスターセッションの演者対応時間が以前よりも不明確になり、訪問者も時間を通じてやってくるため、自分の発表日には見て回る時間の余裕がとれない。見て回るにはもう少し時間が欲しいが、ずっと自分のポスターに待機しないといけなくなるのであれば、もっと短い時間が良い。丸一日スケジュールが満杯になり、大変疲れる。
※	若い層に標準を合わせるべき。
※	ポスター発表で拘束される時間が長すぎて、同日の他の発表者とのディスカッションができなかった。奇数、偶数の番号で発表時間を分割する方が良いと思う。
※	いたしかたない部分もあるが、内容的に関連の強いシンポジウムが同時時間帯にぶつかってしまうのはできるだけ避けてほしい。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	座長と1対1で発表している演者が多数見受けられた。時間も不正確で、基本的に時間をオーバーしていると露が多く、後半の演者の場合は特に人の集まりが悪いようだった。場を盛り上げてくれる座長もいれば、それまで盛り上がっていた場を打ち消してしまう座長もあり、差が出るのはある程度仕方ないが、もう少し適材適所の座長配置をお願いしたい。このような座長制のシステムの場合、座長の質も含めて、発表条件の公平性に問題が出てくると感じた。
※	一般の議論の障害となる。逆に一般の議論中に座長との発表順が回ってくるケースが多く、スケジュールをこなせない場合が目立った。
※	座長制で、必ずコメントをもらえるのはいいが、工夫しないと自分が聞きたいポスターを訪れて聞くことができないのでは？
※	参加していないため、無回答をお願いします
※	座長と発表者(1対1)という光景が見られた。座長制に慣れていないのかも。
※	座長自身が戸惑っているように見えたり、時間を決めて、大勢の人の前で発表をする
※	座長のコアタイムに不在の人がいたり、印象的には不真面目な方もおられた。座長を引き受けた身としてはたいへん残念。座長システムを数年継続させて分生年会は「こういうスタイル」と周知させていくことも大切かと思う。座長議論のコアタイムの設定は適切だったと思う。
※	「4分発表3分質疑応答」というスケジュールを知らず(どこに記載されているか見つけられず)、事前準備が不足した。
※	座長制は一長一短があるのでどちらでも良いと思います。ただ、座長と共にディスカッションするのは良かったのですが、ポスターの前でディスカッションで盛り上がり、そのままそこに留まる人が多く、座長とともに移動する聴衆？がだんだん少なくなっていました。仕方ないですかね。
※	声の大きな酔っ払いが多く、座長・発表者の声が聞こえなかった。拡声器を導入すべき。あるいは、お酒の開始時間を遅らせるべき。
※	座長と演者だけ、あるいはさらに1、2名だけという光景を多く目にした。
※	とりあえず、誰かが聞いてくれる安心感がよい。
※	座長制はよかったかもしれないが、特に必要性はないと思う。
※	実施されなかった
※	一部の研究者に大きな負担をかけるこの座長制には常々疑問を持っております。見たいポスターを見たい人を見る、という原則を貫いていただきたいと思います。
※	座長制は機能していないので不要
※	自分自身が座長を担当しましたが、すでにディスカッションが始まっており、そこに割り込むのは難しかったです。また、ポスターによっては、座長と演者だけのディスカッションになってしまって申し訳なかったです。誰かもう一人、シニアな人がいて、掛け合いながら、演者とトークする形のほうがよかったです。また、座長の配置は、ポスターセッションの最初のほうがよくないでしょうか？
※	「座長制はよかった」とした理由を補足します。未だに、ポスターを張りっぱなしで所定の時間帯に説明に現れない発表者が散見されるので、それを防止する意味で良いと思います。
※	座長の来る時間の幅をもっと狭めて欲しい
※	「より密度の濃い発表・討論を」ということでしたが、具体的にどうすれば良いのかよくわかりませんでした。「今から始めてもらいますよ～」と宣言して聴衆を積極的に集めると、とても7分で終える(議論途中で座長が立ち去る)ことはできませんでしたが、発表者に「4分で説明をお願いします」といってもそれができた人は10人中1人で、平均7分かかりました。こうすれば上手くいくという座長へのアドバイスと、発表者に4分で説明する練習を促して欲しいと思いました。
※	座長が既に行われている議論に割り込む事は良くないと思う
※	特に必要ない。(座長も発表者も)セッションの間動けず、拘束されるのがデメリット
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	要らないと思う
※	座長を担当したが、聴衆が0~3人であり、ほとんど機能していなかったと思われる。他のグループに関しても同様だった。発表慣れていない学生や若手にとっては良い機会になると思うが、ベテランも同じ土俵に立っていることに若干の違和感があった。希望者制にしたり、発表時間を2分程度にして超簡潔に説明するようにしても良いと思った。
※	座長制は善し悪しが有ると思う。普段議論できない座長先生と話すチャンスが作られる一方でオーディエンスを上手く集められず議論が進まない状況にもなる。年度ごとに座長制とそうでない年会を開くのが良いと思う。
※	ほとんど意味がなかった。座長一人だけがポスターの前を回っていたが、負担が大きいかわいそうだった。分野にもよると思うが、このやり方はもうやめたほうがいい。では、どうするべきか？ ということになるが、ポスター会場を昔のように活性化することは、もはや不可能になってしまったのではないかと、諦めを感じた。
※	座長制が機能しているところと機能していないところがありました(機能しているも、座長と発表者のマンツーマンの話になっているケースも多々ありました)。やるのであれば「規定時刻に順番に発表する」ということをポスター発表者なども含め参加者がきちんと認識していないとダメだと思います。ただ現実にはそれは難しいと思いますし、ポスター前で自由に討論することの方がむしろ大事だと思いますので、率直に言って、やめた方が良いと思います。ポスター前で既に行われている討論を遮ってまでポスター発表を強制するべきでないとも思います(そうすると座長制での順番の発表は成り立たなくなります)。
※	座長と共に巡回すると、自分のポスターを見に来た人に対応できない。
※	座長制にしたところで活発な議論がなされたとは思いませんでした。
※	フリートークの方が発表者とdiscussionしやすい。座長の先生方が進めることに注意を払いすぎる傾向にあったように感じた。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	あまり盛り上がりせず、座長と発表者の1対1、というケースが多かったように見えました。
※	不要。意味がない。座長がポスターを見に行けない。
※	座長制を導入するのであれば、当該分野の(真の)専門家を座長に選ぶべきである。その分野の専門家ではない座長が不適切(とんちんかん)な質問をしたり(そのような事例が実際にありました)ポスター発表の評価をするのは問題である。このことは大会のレベル低下に直結する問題であり、その分野の大会参加者が減少(あるいは退会)することにも直結すると思われる。
※	すでにポスターの発表をしているところに座長がくることになり、その人への説明が打ち切られるため、座長はいらないと思う。
※	座長が来ると質疑応答を含め他の人がポスターを見れなくなる。一方で、発表者をポスターの前に立たせるには有効とも思う。
※	他に発表があるならともかく、座長のみ参加で参加費を取るシステムはやめて欲しい。発表もできなくて、お金だけ取られるのは納得いかない。
※	全体的に時間が長引いてしまっていて、後半の発表者は聴衆も無く、とても活発な議論とは言い難かった。座長に当たり外れがありすぎて、フレキシブルに上手くできる座長もいれば、活発な議論がされているポスターにタイミング悪く割り込んだり、質問も低調で冗長に進める座長もいた。もう少し慎重に時間の配分を決めたり、座長の選出を行ってもらえれば良かったと思う。
※	座長として参加したが、順次ポスターを移る際に既に始まっているディスカッションを中断することになり、必ずしも良いとは言えない。また、多くの場合議論を整理するより自ら質問する(せざるを得ない)が多かった。あくまで、来訪者の少ないポスターへの対策とするのなら、各ポスターをより短い時間でグループ発表者全員でまわるような事をしない限り、不十分。これとて、個々のポスターに興味をもった聴衆と発表者のディスカッションタイムを食うことになりは無い。この何れを大切にすれば判断の分かれるところで、真摯な検討の上、次年度の方針を決めて欲しい。方針決定の経緯に関しても、会員間で情報を共有すべきである。
※	こちらの研究に興味を持っていない人間とのディスカッションは正直苦痛。余計なお世話。
※	昔は(生化学会大会だったか)特に何もしなくても、座長のまわりに人が集まって議論が盛り上がっていた。今回の企画もそれを期待してのことだと思うが(私も期待していたが)、実際に見た範囲では、座長と発表者とが1:1で話していることがほとんどで、議論の活性化という意味ではまったく機能していないように見えた。何がどう変わったのかは正直なところ、よく分からない。他では盛り上がっていたのかもしれない。座長がdiscussion leaderとなって議論を盛り上げるような工夫が必要ではないか。
※	座長が回ってきた時間が遅く、終了まじかであり、座長のために説明をしたような状況でした。座長の必要性は特に感じません。
※	ほとんど機能していない。座長が一人で移動している状態で、議論を活発化できていない。このような大きな学会には合わないように思います。継続するなら、やり方を工夫しないと。改善方法は分かりません。
※	座長制は適切に機能していなかった。偶数番・奇数番の振り分けが今年度はなされておらず、会場が混雑しているため、座長が聴衆を引き連れる形での進行は無理がある。規模の大きな学会では聴衆はポスター全てに興味があるわけではなく、自分の興味のあるものをpick upして見ているので座長制で順番にディスカッションしていくのは無意味。
※	主催者が意図したような聴衆を巻き込んでのごろんにはうまくつながっていなかったと思う。ポスター会場では至る所で議論が起きているため、発表者のとなりにはいないと声が聞き取れないレベルであるため、現方式での座長制にはやや無理があるのでは？
※	座長でした。座長の持ち時間が一人に対して7分になっているが、これをスムーズに全員時間内に行うのはかなり難しい。発表者が聴衆に説明している途中だったり、ディスカッション中に、割り込んで説明をしてもらうのは無理がある。見渡しながら、区切りのよい時にランダムに説明を求めました。座長制の意味がどれだけあったのか疑問。
※	やり方自体にコンセンサスがあるわけではなく座長任せで、余り意味を感じません。発表者の声もマイクが無いあの会場では殆ど聞こえませんでした。
※	座長が一人で回っているだけだったので、本来の趣旨とは離れているのではないかと
※	座長と言っても、実際には1:1となるが多かった。
※	座長制は不要。座長も発表者も声が聞こえないし、ポスター発表での個別の議論の機会を奪うことになり、ポスターでの議論というメリットを活かせない。
※	実際、時間内に終われた発表がどれくらいあったのか、座長の先生方にアンケートをとってみると、今後の時間配分の参考になるのではないのでしょうか。
※	座長を採用することは良いと思う。しかし聴講者数がポスター、時間の両方で異なるので、もう少し何か良い方法は無いだろうか？(私も良いアイデアがありません。)
※	失礼な座長によって議論が打ち切られた。偉そうな座長(〇〇〇、〇〇〇センター)のマナーが悪かった。タイマーを持ちながら発表者との議論を邪魔するのは非常識。
※	大抵座長が一人で議論していた。それはそれで良いと思うが、狙い通りにはなっていないと感じた。
※	これにより、発表者とのdiscussionが中断されてしまうことが多々あった。
※	座長がいるセッションといないセッションがあった。
※	座長制度は良いと思うが、発表時間に合わせて聞きに来る人が少なかったように思った。座長の先生とほぼ1対1のようになっている場合があった。にこの制度がもっと浸透すれば良いと思う。
※	私の座長の方は熱心であったが、同時に聞いてくれた人は数人でマンツーマンという雰囲気であった。同一セッションの人が集まり、座長を中心として一人2分発表+質疑応答(画一的でなく適時)で進行させるのはひとつの方法と思う。思わぬ所からヒントが得られる可能性がある。
※	一人当たりの時間が短かった。自由討論とあえて分ける必要は無かったと思います

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	座長と発表者の二者のみの議論の場面が多く見られました。この場合、あまり座長制のメリットは生きてこないと思いました。ただし、絶対に少なくとも一人は関係者以外の先生が真剣に議論してくださるという点は座長制のよい点だったと思います。
※	英語での発表者を無視した座長が居たのが残念であった。うちの留学生は、説明時間が与えられず、飛ばされたそうです。座長の対応がまちまちだったので、きちんと何をするかを決めてもらった方が良いと思う。
※	あまりお客さんが来てくれない時間帯、座長が発表を聞いて下さるのはありがたい。しかし、他のお客さんと話が盛り上がっている時に座長に割り込まれると、話が強制終了してしまいもったいないと感じた。自分の研究テーマが座長の研究分野にはまっていない場合、やつつけ仕事として座長をこなされているように感じた。座長制を導入するのなら、座長と発表者両者のコミュニケーション能力のさらなる向上が必要だと考える。
※	座長とだけでも話ができることは、発表者にとって勉強になると思う。誰も来ないという最悪の事態が回避できるシステムと思う。
※	座長をしたが、座長と一緒に演題を聞いて回る人はほとんどおらず、演者と座長の1対1に近い説明だった。また、4分で発表できる人はほとんどおらず、話が7分になって時間切れになる場合もあった。
※	座長の質が全体的に良くなかった。助教を中心に選ぶという方法ではなく、きちんとマネッジできる人を選ぶべきである。
※	趣旨そのものには賛成。しかし、座長と一緒に移動する人が少なく、座長だけが聴いているケースもあった。機能させるには工夫が必要。
※	座長制は周知されておらず時間も適当だった。
※	私はポスター座長を担当したが、10人の発表者の中から1人だけを選ぶのに非常に頭を悩ませた。今後は1つのポスターに対して、少なくとも座長2人が担当となる形が望ましいと思う。現状は各座長の審査基準がバラバラすぎる。優秀ポスター賞を受賞した人は、私が確認した限りでは、准教授から修士の学生までいて幅が有りすぎる。准教授がポスター賞を受賞したエリアにいたポスポクや博士課程の学生などは不公平感を募らせたことかと思う。座長を2人にして、複数票を投じてもらった中で選ばれるようなシステムにするか、30歳以下や博士卒業後何年の人を対象とするなど制限を設けると不公平感が多少は除かれるかを感じる。
※	・基本的に座長の質疑応答とは無関係にディスカッションが進んでいます。議論自体は活発にすすめていただいたほうがよいとして、座長が回っているときは傍観しつつ、終わったそばから熱いディスカッションを始められるのは何ともバツの悪い思いがしました。「座長制にしたことで活発な議論がなされた」ことはないと思います。少なくとも私の担当したエリアの周囲では、何事も浸透するまで時間がかかるので引き続きこのシステムを宣伝するか、ポスター賞を豪華にするなどのインセンティブを増やしていただければ、と思います。
※	今回は参加していないので、何とも言えませんが、基本的には座長制はあまりよくないと思っています。演者が自分の時間だけしかたたなくなる傾向があるので、自由な質疑がしづらいです。
※	座長制はじゃま。むだ。意味がない。ない方がよい。
※	論文発表と並び学会発表が実績として評価される時代に、ポスターを貼るだけで発表者が立たず、業績とするのはおかしいと思うので、座長制は続けて欲しい。
※	7分は短すぎる。座長を増やして、討論時間を長くするべき。
※	座長が回ってくる前にすでにポスター前で説明・議論が始まっていた。自分の時間になった時に、それまでの議論を途中で止めなくてはいけなかったの、聞いてくれていた相手に申し訳なく思った。発表が始まっても聴衆は座長だけになってしまったので、この形式は必要ないのではないかと思った。
※	座長の方が大変熱心な方で、大いに議論できた点は良かった。ただし時間がどうしてもおしまい、後半の発表者にとっては時間の読みが難しかった。
※	座長が巡ってくる順番(先か後か)で人の集まり具合とかが決まってしまう、後ろの方の順番の人はやりづらかった。
※	かえて時間制限が厳しかった
※	問題点を以下に挙げた。1. 演者がこない場合がある2. 聴衆がまったくいないポスターが出てしまう3. 活発に議論がされているポスターにポスター座長が割って入る必要出てしまう。
※	私の学生の発表はある座長の方の始めのポスターだったが(次が通路だった)座長の方が次のひとからはじめて、発表の機会を与えられなかったのは(せっかく練習したのに)大変残念だった。座長制にしなくても、興味があるポスターには、しっかり内容をたずねるので、座長制にしなくても良いと思う。
※	担当した座長の能力に疑問をもった。基本的な知識がなく、全く議論が進まなかった。
※	ポスター発表を聴いている途中で座長が回って来られ、座長のために発表を最初からやり直すことがあり、迷惑であった。
※	座長がいることで、発表者は少なくとも座長と議論できる。
※	不参加
※	座長の後に、だらだらと着いていくパターンが割と見られたが、非常に邪魔に感じた
※	座長制を取り入れたが、あまり有効に機能していなかった。もう少し、人数を集めて、説明・討論をするようにした方がよい。
※	時間的に焦っている感じで、また、少時的外れな質問をする座長もいたので、人選は重要課題です。
※	座長が来るまで待たなければならず、近くのポスターものぞきにいけない。以前に同様の取り組みが行われたことを記憶していますが、すぐに消滅しましたね。
※	ある座長が、すでにポスター前で議論しているものを遮って、最初から説明させていた方がおられたので、座長の方のモラルも必要だと思います。
※	4分発表3分質疑で十分な議論ができるとは思わない。ポスターは口頭と違い、内容をじっくり聞いてもらい理解してもらった上で議論するというスタンスの方が良いと思う。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	4分発表3分質疑応答は守られていなかった。ポスターを個人的に説明している人の順番が飛ばされて後回しになるなど、進行が不明確だった。
※	座長による進行をセッションの途中に入れると、すでに聴講者との議論が終わっていたりすでに聴講者が発表を観終わっていたりして、座長と一対一で進行することが多かった。セッションの最初にして、後半は自由討論という形にした方がよいかもかもしれないです。
※	ただ座長をする人は大変ですね。座長を選ぶのも。
※	特に後半は発表者と座長のみ、みたいなどころも多く見受けられた点は良くなかった。
※	自分の場合、フリートークの時間から質問者が来て議論をしていたので、座長が必要だったとは思えない。前回の座長制があった大会でも同様の回答をした。
※	演者に説明してもらっているときに「時間だから」ということで割り込まれたり、質問し終わって次に移ろうというときに「一緒に聞け」と強制されたり、全く心外で貴重な時間の浪費にしかありませんでした。
※	ポスター担当時間に場所を離れないと他のポスターの演者と討論できない。偶数/奇数で2交代制にした方が良い。
※	ポスター発表時間の途中から座長による進行が始まったため、人が集まりにくかったように思う。
※	実際には10分以上かかることも多く、7分というのは無理があるのではないかと。また、座長制と言ってもほとんど1対1の討論なので、他の聴衆はそれ以外の時間に討論することになり、議論の活性化には必ずしもなっていない。座長の負担も考えるとあまりメリットは感じられない。
※	自分の発表したところでは全く機能していなかった。いつ来ていたかわからない。
※	各発表のショートプレゼンを聞いている人が座長以外にほとんどいなかった。しかし、ショートプレゼンをして少なくとも座長とは議論を交わせるので良いシステムだと思いました。
※	私たちのポスターの区分では座長がお一人で順にディスカッションされていました。ともについて回る人は誰もいず個々の発表に対して議論の呼び水になってはいませんでした。座長が当該ポスターや隣のポスターのところにいらっしゃる時間帯には口を出しにくく結果的にかえって議論を阻害していたようにも見えます。奇数、偶数別の発表時間がなかったことが最もよくなかった点だと思います。
※	別の人とDiscussionしている最中に座長が入り込んできて、Discussionがさえぎられてしまった。
※	マイクとスピーカーを各セッション毎に配備しないと、聞こえにくいので、時には座長と演者の2人だけで、聴衆なしというケースもあった。
※	ポスター発表での質疑応答は不要だと思います。ほとんどその時に人がいません。口頭発表を増やして欲しい。
※	自由討論を途中で中断しなくてはならない場面もあり、あまり意義を感じられなかった
※	・ポスターセッションの境界がわかりづらかった ・パネルの間隔が広過ぎたため説明やディスカッションの音がほとんど聞こえなかった
※	ポスターdiscussionにマイクを導入すべき
※	座長が一つのポスターに15分以上留まり、担当学生のプレゼンは終了時間間際になった。さらに後ろの演者は当然ながら終了時間後になっている。いくら座長に依頼しても同じことが起こるので、座長が個別に回ることを禁止し、座長が周囲の聴衆に声かけをして聴衆を集めて移動することを義務付けることが必要、つまり他人が座長の暴走を監視する必要がある。もっと確実な方法は、座長に加えてタイムキーパーを用意して、座長の運営を監視することが必要。なぜこのように強く求めるかと言えば、今回ポスター賞が設定されており、時間外になった学生は受賞のチャンスを逃すことになり、極めて不公平であるから。
※	座長制には異論はない。発表者の対応時間がはっきりしないため、結局ポスターセッションの時間全体を通してポスターのところにいないといけなくなり、他のポスターを見に行けなかった。同日に同じような分野のポスター発表が集中するため、チェックしたい発表も多くなるが、動けなくなると困る。全体的には活発に討論はされていたと思う。
※	座長制は指示するが、今回の形式は良くなかった。参加前は、座長が司会となり、順次、発表者が公聴者に向けて発表すると考えていた。しかし実際には、座長と1対1でディスカッションするのみであり、座長は単なるポスター賞選考者でしかなかった。また、時間も大幅に遅れていた。
※	趣旨は悪くはないが、7分は長い(多くの分野を回っているのであまり長く立ち止まりたくない)。やるなら1分にして、後は個別に議論の方がポスターの良さが活かせると思う。
※	座長を担当したが、ポスターの前に必ず聴衆がいるわけではなく、中途半端な感じになってしまった。座長制を取り入れることに異議はないが、やり方をもう少し工夫した方がよいと思った。

質問12. ポスター発表について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	顔写真で本人と名前が知られるのに少し不安がある。
※	座長をしたが、甲乙つけがたいポスター演題ばかりで優秀ポスター賞の選考に苦慮した。賞を授与するのであれば複数の審査員によって選考した方が良かった。
※	無料のビールがたいへんよかったです。太っ腹の大会長の英断を支持します。優秀ポスター賞を選ぶのは、大変では？力の入ったポスターが多かったのだ。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	そのセッションをたまたま担当した1人の座長によって優秀ポスター賞が決まってしまうのは、如何なものかと思いました。座長の経験の浅い方もおられ、フェアに判定出来るかどうか疑問に感じます。実際に、座長によって、若い人の受賞を優先する人、発表の内容で選ぶ人などなど、選ぶ基準が異なっていたように見受けられました。
※	昔のほうが良かった。
※	優秀ポスター賞の存在を事前に知らず、選考方法もよく判らなかつた。誰が、何を基準にして、何%選ばれるのか、など。
※	審査員一人の点でポスター賞が決まるのは問題である。優秀ポスター賞を継続するのであれば、少なくとも複数名が採点する形にする必要があるのではないか。
※	ミキサースタイルはよかったかもしれないが、自分的にはコーヒーの無料サービスの方がよかった。
※	優秀賞を出すのは最悪でした。広い分野の多様なポスターを比較し点数をつけるという行為は、学問の王道からそれています。後味の悪いポスターセッションとなりました。
※	座長を務めました、ポスター賞が座長1名の投票で決まるのは良くないと思います。
※	奇数偶数番での発表の方が、隣に迷惑にならなくて良い。
※	何を基準にした優秀なのかがよくわからない。
※	座長ごとにポスター賞を選ぶのは、さすがに多すぎるのではないだろうか。
※	顔写真は賛否が有ると思うが、就職を考えている若手には有効だと思う。日本人は恥ずかしがるので学会で「推奨」としておけば「推奨されたから」と言って写真を貼るきっかけとなるので推奨しておくのが良いのではないか。
※	ポスター賞の選考基準が公平にできないため、数を減らした方がよいのではないか。やたらとポスター賞や発表賞を出す学会があるが、そうではなく、一定の質を保って欲しい。
※	優秀ポスターを決めるといっても、審査の公平性がとうてい担保できていないとは思えなかつた。中途半端なものを出すべきではないと思う。顔写真の掲示が推奨されていたことを、このアンケートで初めて知ったが、いいアイデアだと思うので、今後もぜひ続けて欲しい。ビールを配っていたようだが、すぐなくなったみたいで、結局ふつうに有料販売しているだけだった。だったら、値段を抑え気味にして全部有料のほうがよっぽどよかった。
※	優れた発表を表彰することは良いと思います。その意味で、「順番に発表させる座長制」は反対ですが、ある程度の鑑識眼のある(と思われる)シニアな人が割り当てられたポスターを見て回り、優れていると思うものを選ぶのは良いと思います。顔写真は意味がよくわかりません。
※	座長と発表者が知り合いの場合等、その座長1名が周囲10演題くらいからポスター賞を選ぶという行為はいろいろと難しいものがあると思います。せめて複数名で選ぶようにしないと、禍根を残しそうな。また、全ポスターを対象にするのではなく、若手中心にポスター賞に立候補してもらい、そこから選ぶ、というような方法はとれないでしょうか。
※	優秀ポスター賞は分子生物学会にはそぐわない。規模が大き過ぎ、分野が非常に幅広い中、どういう基準で選ばれるのか不明である。一部有力研究室の得点稼ぎの場になるだけ。
※	優秀ポスター賞を設定するのであれば、当該分野の(真の)専門家以外のひとを座長に選ぶべきではない(Q11の回答を参照下さい)。
※	優秀ポスター賞はある方が良いが、今回のように座長の一存で決まるのならない方が良い。もう少し公平で、客観的な決め方にして欲しい。また、基本的には、publishされていないデータを評価するものであるべきと思う。
※	座長としてポスター賞の選定に関わったが、10件程度から1件選ぶのは強く反対する。原理的にも10件程度ではポスターの質の統計的な片寄りが大きく、10件とも対象外のポスターのみのセクションがある一方で、複数優秀なポスターの入ったセクションでは優れているにも関わらず選から漏れる物がでる。出すのであれば、公平性をより重んじた方策を採るべきで、今回の方法は不適切。勿論、それに伴う選者としての責任を負うことになった場合、それを行うに個人としてはやぶさかでは無い。ただし、これを多くの会員が是とする必要がある(それだけ、ポスターを回って判断するのに徹し、かつ、その能力のある人員を確保できるか?)。
※	優秀ポスター賞の設置には賛同するが、研究内容は研究歴の長さによる影響が大きいので、その点を公平に審査するのは難しいのではないか。結果を見ると、若手への配慮が感じられたので、うまくいっているのかもしれないが、ポスター賞の審査を希望者だけにすると、
※	パシフィコはやかましいので声が聞き取りにくい。何らかの音響は必要。
※	優秀ポスター賞を、一人の意見(座長)で決めてよかったのかどうか疑問。個人の趣味が入るし、せめて2-3人で複数選んで、決めようが公平だと思う。座長が聞いて回るのは、学生だけにして、ポスター賞も学生からだけにするとかにしたらよいかも。あるいは、座長制をなくして、各分野ごとに複数人数のポスター選定委員を指名して、(学生のみから)ポスター賞を選ぶ、とか。
※	ポスターセッション後にフォーラムなどあるにも関わらずビールを配るのはどうかと思った。
※	分野も多様な演題の中から優秀賞をだすことには無理がある。基準が明確にできない。
※	優秀ポスター賞はあってもいいが、該当者が多すぎる。あんなにたくさんの方が受賞する賞には意味がない気がする。
※	公正な指標もないのに、少数(1人?)の審査員が主観のみで研究に優劣をつけるのはおこがましい。審査員が十分れば意義はあると思うがこの規模の学会には無理だろうし、不要である。

質問12. ポスター発表について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター発表を行ったが、会場の端の場所での発表自体に不満はなかったのだが、照明が十分でなくとも暗い中での発表となった。隣のポスター発表者などは、iPhoneの明かりで照らしながらポスターを説明していた。きちんとした照度があることを確かめてから会場設営をして欲しい。
※	優秀ポスターを出すのであれば、受賞者を決める方法・基準を明確にしてほしい。
※	発表しなかったのに、優秀ポスター賞や発表者顔写真提示推奨のことを知らなかった。顔写真が貼られていて、若い人は積極的だと思っていた。あれだけ数が多いと、優秀ポスターを選ぶと言っても大変ではないか？
※	ポスター賞の設置は良いと思うが、座長による偏りがあるのでは。(あまり偏るなら無い方が良い。)
※	関係ない話をしている人を静かな場所に誘導する、美術館の学芸員のような人が必要。うるさくて発表が聞こえません。ビールの配布もやめた方がよい。酒臭い人がポスターを聞きに来て嫌でした。あと、ビールに並ぶ人の列がじゃま。
※	発表者がつけるリボンほとんどの人が付けておらず、名札も見えないことが多いので、顔写真の掲載は良いと思います。
※	アルコールの販売はやめてほしい。絡まれそうで怖い。飲んで議論することでもないと思う。
※	優秀ポスター賞の設置はよかったと思う。ただ、座長1名による選定という点については、疑問が残る。顔写真は掲示推奨ではなく、掲示可能くらいに留めた方がよいのでは。今回の学会で、顔写真が掲示されたポスターは2割にも満たないのでは？ビールは最高でした！
※	ビール無料配布によりビール片手にポスターに来る学生を多数拝見し、真剣に研究発表を行おうとしている人間からすると不愉快であった。また特定ポスター前でビール無料配布を行ったため、周辺に多くの人が並び、ポスター発表の邪魔であった。
※	不参加
※	ビールは飲めないで、他のドリンクも希望する。
※	写真掲示は質問等をしたときにとっても便利です。ただ、実際は1割程度しか掲示していませんでした。もう少しやってくれる人が増えるようになると良いと思います。
※	顔写真はなぜ必要なのでしょう？日本の会場は、人を縫って進まなければならない狭さなので、ビールサービスしていただいても、飲んでいる間は怖くてポスターの近くには近寄れない。ゆっくり飲みたい方は、ベンチに座って飲むことになりましたが、これはポスターを聞きにいけないことを意味します。このゆったり感がよいなら、次回も賛成致します。
※	優秀ポスター賞の数が多すぎると思った
※	優秀ポスター賞の設置は良かったと思いますが、約10題の発表から1人の座長が1つのポスター賞を選ぶというシステムは良くないと思います。1つの研究室で5題ぐらい連続した発表もあると思いますので、そうすると研究室として選ばれる可能性は高まるのはあまり公平ではないと感じました。代替案として、約30題に3人の座長を担当させ、そこからそれぞれ1題ずつ選ぶというような工夫もできると思います。
※	ポスターの掲示が遅い傾向がありました。当日の朝から掲示している方もある一方、議論時間の開始直前になるまで掲示しない方もかなりありました(ついに掲示されない方も)。何らかの指針が必要かと思えます。
※	ただ、どういふ人にポスター賞を贈るかというのは考えたほうが良い気がしました。PIの人が貰った場合もあったので、ある程度若手を対象にするなどを考えてもよいと感じました。
※	可能ならフリードリンクやおつまみ？を充実させてほしい
※	名札に発表番号を目立つように印字する手もあるのではないかな？
※	ポスターを張る板が硬すぎて、ポスターの掲示に予想以上に時間がかかりました。複数枚の紙に分けてポスターを印刷していったので、ピンを差し込むのが大変で、指が痛くなってしまった。磁石で張り付けるなど、女性でも楽に張り付けられたら助かるなと思います。
※	優秀賞の基準は何ですか？
※	ビールの提供はとてもよかった
※	ポスターを見にくる際に、特に企業からの参加者は所属を隠して言わず、名札も見えないように隠していることが多い。大学の発表者から警戒され情報が聞き出せないための対策と思われるが、態度が卑怯だ。情報取りのシステムが会社で構築されているようで、決まって発表者からは専門的なことを聞き出す質問者自身は専門外と称し一切何も言わない。討論にならない感じがしている。
※	ポスター賞対象者は、学生と学位取得5年以内の研究者だけで良い。
※	ポスターへの発表者顔写真の掲示は、「してもよい。」にとどめて、本人に任すべきである。
※	今回の座長制ではポスター発表が中途半端な形で行われた感が否めない。発表時間における聴衆の有無や質疑応答の印象も少なからず優秀ポスター賞の選出に影響を与えたと思われ、今回のスタイルで優秀ポスター賞を選定するのは難しかった。

質問13. 年会の特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	市民公開講座はレベルが高くて雰囲気もよくとてもよかった(他の企画はさんかしていないのでわかりません)。
※	参加者は多くはなかったが、2F6「分子生物学の過去と未来—フランス・クリック生誕100年を記念して」は良かった。
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	参加できなかったので評価をしません。
※	研究者が抱える・直面する問題を避けた無難な企画でした。
※	過去のジंकピリチオン集会のような奇抜な集まりを数年間隔でお願いします。もちろん毎年では難しことはわかります。
※	時間が無くて参加できなかった。評価できない。
※	ガ子議論の定期開催を強く望みます
※	不参加
※	学会としてあれもこれも盛り沢山の企画を求めて参加しているのではないと思います。本筋の学術発表の場として、研究交流のレベルが充実してこそ参加する喜びがある。その中で、未来を感じさせる高校生発表会は素晴らしい企画だったと思う。
※	重要性を考えると、より早い日程であればなお良かった。
※	直接関係はありませんが、製薬・創薬面談ブースは、出入りが外から丸見えですし、音も漏れそうな構造で、あれで果たしてクローズドの面談ができたのか心配です。
※	高校生の口頭・ポスター発表は、今後も続けた方がよいと思う。ポスター会場の中央に設置されてこともあるが、高校生の発表には新鮮さを感じられた。予算も設備も限られた中で何かを発見しようとする努力と工夫は、大学や研究所で活動している学生や研究者も見習うべきところがある。
※	すいません、学会企画のランチョンセミナー一つだけしか参加できませんでした。少なくとも十分盛りだくさんで、これ以上しないことが大事かと思います。

質問14. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（要望・その他）

回答者 番号	要望・その他記述
※	スポンサーを立てる意味で仕方が無いのかもしれませんが、入り口から入るとポスターではなく企業展示しか見えないことに違和感を感じました。
※	展示場のマップがあったのかもしれないが、どこにあるのか気がつかず、行きたかった企業のブースにたどりつけなかった。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	〇〇〇などにお話伺いたかったが、折られなかったのが驚いた。参加企業がもう少し揃っていただくようお願いいただいた方がよいと思う。
※	企業展示は年々規模が小さくなっている気がする
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	海外の学会で企業ブースとポスターブースが交互にレイアウトされていることがある。またIDをスキャンすると登録情報が渡されて連絡を取ることができた。また、研究者に対し「企業より支援を受けているので積極的に企業ブースに立ち寄り情報交換してください」とアナウンスしていた。補助金が減っている以上企業からの支援は必須と思われ、企業にとってメリットのある学会を考えても良いのかもしれないと思った。
※	今年は例年に増して、企業の展示ブースでのサンプルの配布が減ったように思う。残念。
※	バイオテクノロジーセミナーでの昼食無料配布は止めるべきでは？聞きたいものがあったも参加できない
※	昼食時ではなく、以前のように午後、または夕方の時間にしてください。これは弁当目当てで来る人を防ぎ、本当に聞きたいセミナーを開いていただきたいことによります。以前、テクニカルセミナーの講師を引き受けたことがあります。その際には最終日の午後ではありましたが、一応そこそこ人が集まりました。必要な情報を提供できれば、弁当がなくても人が集まると思いますし、食べた直後に寝ている人を見ずに済みます。時間帯の変更が無理であれば、弁当の有料化も検討してください。
※	明らかに座席数が少なすぎるだろう。分子生物学会周辺の経済状況の悪さを感じた。
※	事前WEB登録・抽選システムは良かったです。無意味に取れるかも分からないチケット為に早朝に行く必要がなくなりました。また、参加票と一緒に抽選で当たったセミナーのチケットが付いていたのは感動しました。一点いただけなかったのは、企業によっては自前の参加票(メール)の印刷・提出を義務づけたりと、勝手にルールを作っていた点です。
※	バイオテクノロジーセミナーは大変ためになる形式でなされたので良かったと思う(企業よりも研究者主導の点において)。展示会の方は年々、ブースの縮小化、高額機器、試薬類展示への偏重化、参加企業の現象が感じ取れる。経済的な要素が反映されてのことだとは思いますが、もう少し華やかさと基本性を考え直した方が良いように思えた。また中小企業のブースで、何をやっている会社なのかのアピールが少なかったり、担当者不在の場面も見受けられた。学会の場でこそ生の製品に触れて話が直接聞ける絶好の機会なので、研究者のためにも是非理もれないようにアピールできるよう、学会本部の方からの補助もお願いしたい。
※	年々活気が悪くなっていますが、今年は特に活気がありませんでした。
※	セミナー数が少ない。事前整理券のウェブ配布が少ない。
※	予約してもランチョンに参加できないのでは意味がない。
※	1Fでの引き換え券無しで、名札についた券で入場(お弁当も受け取り)している人々を多く見かけた。その近くでは、真面目にキャンセル待ちの列に並んでいる方々が多くいらっしゃり、とても不愉快に感じた。セミナー開催者側(お弁当を配る方)は、チェックを甘くせず、厳格に対応すべき。
※	不景気のため数が少ないように感じた

質問15. 本年会の規模について（その他）

回答者番号	その他記述
※	大きすぎるけれど、活発なので良かった。無理に小さくする必要はないと思います。
※	参加していないため、無回答をお願いします
※	人数自体は強制的に減らせるものではないので仕方ないが、横浜の会場は部屋が小さすぎるものがある。全然入ることができず(立ち見すらできず)、聞きたいシンポジウムが聞けなかった。
※	もっと集めて異分野他分野の話が聞けるようにしてほしい
※	例年より日数も少なかったですが、やはり大きいです。ですが、世の中にはいろいろな研究があって、たくさんの方が研究をしているんだということを大学院生が知る機会にはなっています。
※	規模が大きくなることは仕方がない。しかし、ゲノムプロジェクトの開始以降の長い期間で見ると、何かと広く浅くという印象がなかなか拭えない大会になっているような気がする。
※	大きすぎる気もするが、このようなお祭りの学会があっても良い。
※	分子生物学会はとにかく多種多様な人に会うのが目的なので巨大会として存在していて欲しい。
※	質が保たれていれば数は多くてもよい。学生の発表練習や業績を増やすために利用しないよう推奨して欲しい。
※	やや減った？1万人規模を目指し、それを継続すべき。
※	特になし
※	年々発表数が減少している印象。分野に偏りができつつある。自分の周囲も分子生物学会を退会する人がポロポロ出てきている。特にビッグサイエンスしかもてはやさないのだとしたら、一般の多くの研究者にとって、自分の研究に直接結びつけることができる情報収集の場、発表の場としての魅力はなくなる。もし可能であれば退会者の人たちに
※	生化学会との合同開催を重ねて、数年以内に2つの学会を合併してほしい。同系統の大きな学会を一年に二回開催しても、両方に出張することは不可能である。
※	実際にそれだけの人があるので大きすぎると言ってもしかたない。しかし学生の立場に立って考えるとここまで大きな規模でポスター1枚でどれほどの人が自分の研究に注目してくれるだろうと思うだろうし、実際に人が来なかった時にモチベーションを失ってしまうかもしれない。横浜は神戸と比べてもポスター会場が口演の会場から離れているので人が孤立しやすいと思う。
※	学部生の無料化はやめたほうがよい。代わりに修士課程の学生を無料化してはどうか。学部生ではただの見学にすぎない。修士の学生なら、もっと演題を批判的に見ることができると思う。
※	若い方が減っているように感じられ、分子生物学の将来が危ぶまれました。
※	不参加のため不明
※	大きすぎるというコメントが多かったら小さくするつもりなのか？小さくできるのか？大きい学会は大きい学会としての役割があると思うので、適当かどうかかわからないが、このままいけばいいと思う。
※	何を主たるテーマと考えるか、によって適切な規模は違う
※	不参加
※	年々、大きな学会の割に専門的中身が薄くなっている印象を持っていたが、3日間に凝縮されてとても良かった。前述したように、シンポジウム、ワークショップの数が多すぎて重複する内容も多いのはプログラム担当の問題と思う。それは長年抱えている課題でもあるので、経費とのバランスで今後も検討して欲しい。
※	少し縮小傾向にあると感じたがその分まとまってきたと感じた。

質問16. 本年の開催形式(単独開催)について (その他)

回答者番号	その他記述
※	今年度は生化学会と別開催であったため、参加者も生化学会メインの研究者の参加は少ない感じが否めなかった。生化学会も重視している研究者には、発表した時のディスカッションの盛り上がりなどを含め、やはり物足りない感じがした。
※	学生の学会参加費の負担が年々重くなってきています。合同大会など、数が減るのもいいかなと。
※	今回は非常にいい年会だったと思いますが、「単独開催だからよかった」のではなく、「単独開催だったけれど、よかった」という印象です。今後はできるだけ合同開催を推進していただきたいです。
※	参加していないため、無回答でお願いします
※	Q14と関連して参加する法人や研究者が集まりやすい方がありがたい。
※	毎年合同でも良い
※	内容を確認していない(年会に不参加)
※	ミニシンポジウムに偏りがあると思ったので単独より生化学会との合同大会の方が面白かった印象。
※	生命科学系の学会と緩やかな共同開催にして、それぞれの時期をずらし、会費も別にできるとよい。遠方からだと、複数回の出張旅費が大変なので、交通の便のよい場所でまとめて開催できれば、学生旅費も節約できる。
※	生化学会との合同大会が良い。
※	生化学会と一緒にやった方が良いと思います。
※	単独開催である程度絞った方がよい。
※	聞きたいシンポジウムが重なる傾向にあるため、3~4回/日(2時間)という組み方ではどうでしょうか。
※	合同開催でもよい
※	生化学会と分子生物学会の特徴を分けて単独開催されるのが最も良いと思う。現状では、合同でも大差ない。
※	次間にもあるように、生化学会との合同開催が良い。今回は生化学会に出られているような先生方が参加されていないため、シンポジウムなどでも盛り上がりに欠ける感じがした。
※	特になし
※	生化学会との合同開催がよかった。
※	生化学会と一緒になるべきと思います。一部の大学・研究室を除き、多くの方が研究・教育以外の雑務に忙殺されています。とても、学会参加を複数回捻出できる財政的・時間的な余裕がある人は多くないだろうと思います。その意味で、歴史がある学会であり、幅広い分野をカバーしている両学会が一つになれば、助かる方は多いのではないのでしょうか？
※	自分の分野に関連してか、昨年のほうが得るものが多かったように感じた。
※	生化学会との共催はあまりにも規模が大きすぎて単なるお祭りになる。
※	規模を考えるとちょうどよいと思いますが、生化学会と内容が重複することもあり、両方参加するのはなかなか困難。
※	分子生物学会/生化学会など実験手段のイメージが先攻し、両者の境がなくなりつつある現在、統合していくべきと考える。
※	生化学会との合同開催を望みます。
※	生化学会と合同にならなかった事で、分子生物学会らしい良いテーマがそろっていました。来年また合同になりますが、生化学会との合同開催は全く意味がないと思います。生化学会の規模が縮小し、単独で大きな会場で学会が開けないため、短に分子生物学会が財布として使われているのでは？
※	生化学会との合同が良い
※	例年、MBSJとBMBの違いが、あまり感じ取れない。
※	平日開催は、一般演題参加では難しくなってきました。所属大学の担当授業により。
※	どちらでもよいと思う。単独と共催が年によって入れかわるのがよい。
※	政治的もんだいはともかく、毎年生化学会と一緒におこなってもよいとおもう。
※	どちらでも良い。
※	不参加
※	合同でも似た内容になるはず。3日間というのが良かった。
※	生化学会などと共催がよい。複数学会への参加が時間的に負担ですし、一回の参加で済むほうがよい。
※	生化学会との合同開催が望ましい。両方参加するのは経費の面からも時間の面からも困難。
※	口頭発表に採用された場合にはポスター発表は免除してほしい。
※	生化学会と合同大会にして欲しい
※	期間が短くとても参加しやすかった。
※	日本生化学会とのコラボが良い。
※	生化学会と合同で開催すべき
※	合同開催に良い面も多いので、単独・合同交互開催は良い着地点ではないか。

質問17. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	生化学会、細胞生物学会、発生生物学会、免疫学会等々たくさんあるとは思いますが、なんせ先方のいこうもあるでしょうからねえ。
※	発生生物学会、細胞生物学会、がん学会。
※	会期は3日以内で開催するのが良い。
※	生物工学会
※	日本エピジェネティクス研究会、情報系学会、RNA学会
※	Q4で挙げた学会
※	生化学会、発生生物学会、細胞生物学会、組織培養学会、生物物理学会、他には上記設問で重複所属者の多い学会や研究会。
※	生化学会以外の学会との合同開催はすべきではない。
※	日本癌学会
※	細胞生物学会、神経科学会、神経化学会、遺伝学会、生化学会、生理学会。あまり相手側の規模は考えなくていいと思います。毎年基本的にどこかと共同開催することを基本とすればいいのでは？とにかく学会が多すぎます。
※	日本細胞生物学会日本発生生物学会
※	ただ合同開催ではなく、例えばメカノバイオロジーをテーマにして生物物理学会と共催とか、その都度何かテーマを決めてくつつのはありかも。
※	分生のような巨大会はさらに巨大になって、無駄な学会の数を減らして欲しい。研究者の意見の集約もしやすく、発言力も持ちやすくなる
※	今回のシンポジウムで特にテーマとして多かった、日本癌学会や再生医療、幹細胞などの学会。
※	どちらでもよい。細胞生物学会やバイオインフォ学会もあり?
※	日本細胞生物学会日本ミトコンドリア学会日本セルデス学会日本がん代謝標的治療学会日本基礎老化学会等
※	特定の学会に限らず、どこの学会との合同開催の選択肢があってよいが、「分子生物学会と生化学会とはいつも合同開催するのが至極当然」との考え方を押し付けられるとすれば、うんざり。分子生物学会の会員であって、生化学会の会員ではない人たち(分子生物学会の会員の7割?)に迷惑ではないか。分子生物学会と生化学会とは合同開催に反対することが、日本のライフサイエンスの発展を妨げているかのような言動には、ドン引きする。少子化の現状と将来を見据えるなら、学会の「合体」を議論した方が建設的かもしれない。
※	細胞生物学会、生物物理学会、ほか、基礎研究寄りである程度の規模のある学会なら可能ではないか。

質問17. 今後の年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	生化学会と両方とも行くのは困難です。最近では生化学会を優先していましたが、久しぶりに分子生物学会に出席し、よさを再認識しました。ただ、これからは生命科学に関係する基礎の学会として、合同開催してほしいです。以前は「規模が大きすぎる」という声もあったようですが、そんな人数が集まっているうちに、今後のことも考えて一緒にするべき。
※	来年に企画されているという噂の、多くの学会との合同開催、意味不明です。もうちょっと学会の本来の意義を年会長は理解すべき。学会はお祭りではない。高い参加費を払ってお祭りに参加するほど暇ではない。
※	大会の絶対数は少なくても良いです
※	分子生物学会と生化学会そのものが早く一つの学会にまとまるべきである。
※	単独開催でも、合同開催でもよい。合同開催のほうが幅が広がってよい。
※	生化学会と分子生物学会の特徴を分けて単独開催されるのが最も良いと思う。現状では、合同でも大差ない。
※	次年度は多数の学会が集う形だが、日本分子生物学会程度の規模・参加研究者の広がりを持つ学会であるからこそ、そうした活動の中核となるべきで、ことさら単独開催に固執する必要は無い。一般発表や通常のシンポジウムは基本的に共同開催で行い、もし、独自性を出したい場合には、年度毎に絞った内容に関しての規模の小さい分科会シンポジウムコンプレックスなどを企画してはどうか？
※	合同開催のメリットはありますが、遠方からの参加者にしてみれば、宿泊先の確保や会場移動など、開催規模が大きくなることでも不便さも増します。現行の規模が適切かと思えます。
※	数年に一回の合同開催が良い。
※	生化学会との合同開催を重ねて、数年のうちに2つの学会を合併してほしい。同系統の大きな学会を一年に二回開催しても、両方に出張することは不可能である。
※	分子生物学会だけでも規模が大きいの、単独開催が良いが、生化学会とほぼ内容的にも重なるので、合同開催は避けられないかと思う。他には、細胞生物学会、発生学会、RNA学会などは内容的に一緒にできそうであるが、これらの学会も、合同開催により小規模であることの良さがなくなってしまうのは避けたい。と考えると、やはり生化学会との合同開催が一番現実的であると思う。
※	他の学会との共同開催は規模がさらに大きくなるが、結局は派閥で集まってしまい、共同開催のメリットを生かせない可能性があります。小さい規模の学会から見た場合には、分子生物学会と共同開催することで、メーカー展示が大規模になるなど情報収集ではメリットがあります。どこまで学会間で密な連携が取れるかだと思います。
※	他学会との合同大会は良いと思うが、あまり頻度は高くなくて良いと思う。合同大会は、3-5年に1回ぐらいが良いのでは。
※	ポスター座長として呼ばれていなかったら今回は参加していなかったらう。
※	生化学会とは本質的に分野が異なるので、合同開催はおかしいと思います。政治的にどうしてもというのであれば、同一会場で、会期前半が生化学会・後半が分生とするのはどうでしょうか？
※	来年のConBio2017がBMBと明らかに毛色の違う画期的な企画であることを期待する。
※	会場内で無料のビール目当てに長蛇の列が出来ているのも酷いと思ったが、高校生のポスターの前でビールを配るのは如何なものかと思った。やるなら会場の端等、なるべく目立たない様にして欲しかった。
※	生化学会と共同だと規模が大きくなりすぎて疲れます。また、神戸の会場だと移動時間がかかるので更に疲れます。今回の横浜は部屋の移動がとても楽で良かったです。
※	たまには合同開催も悪くないのでは？
※	これ以上規模が大きくなるのは参加しづらい面がありますが、合同にすることで日程を長くしてシンポジウム時間を分散できるのであればそれでも良いと思います。
※	来年度、合同開催(多くは共催?)であるため、他の学会との合同開催の形式を確認する事ができるため、楽しみにしています。
※	単独、生化学会合同、どちらでも良いと思うが、地方在住なので1回の出張でたくさん演題を見られる合同開始のほうがありがたい。
※	合同にすると人が多くなり大変。特に神戸で開催されると、宿泊場所・ポータライナーともに混雑して困る。(神戸の会場へのアクセス方法はポータライナーしかないため)
※	合同のほうが生化学会の知人に会えるメリットがあるが、巨大になり会期が長くなるなどデメリットがある。通常単独で数年に1回合同が良い。
※	今回の規模でちょうどよい。これ以上参加者を増やしても、参加者にとっては時間が浪費され、離れた会場間の移動などで疲れるだけで、メリットが感じられない。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	年会全般として、シンポジウムの編成などでは、研究領域が狭いという感じがしたが、ある意味、より専門的でマニアックな分子生物学会らしい雰囲気は、ここ数年の学会よりは出ていたと思う。単独開催なので難しかったのかもしれないが、逆に単独開催で、生化学会との合同年会のアカデミックさを出すというのも良かったかも知れない。
※	最終日のポスター発表は午後早めか午前にした方がよい
※	今回はシンポジウムも主催させていただき、ポスター発表した学生も休みなしで説明したようで、充実しておりました。
※	朝8:00時からの特別講演は、著名な方の講演ではあったが、早すぎると感じた。
※	今回は3日間でコンパクトにまとまっていたのが良かったです。18時までメインのプログラムが終わるのも良かったと思います。
※	人数・演題が多いのはもはや仕方の無いこととして慣れた感がある。その中で、口頭採択演題を増やすなど、若手研究者にとって自身の研究をアピールするチャンスをより多く取り入れて欲しい。採択演題を取らないワークショップがあるなど、やや疑問も残った(もちろんオーガナイザーの先生方の考え方も理解できているつもりではあるが)、やはり分生年会のような大きな舞台で演題を採択されることは研究を行う上で大きなモチベーションになると思うし、私は少なくともそのような気持ちでやっています。この感覚をより下の世代の学生・ポスドクなどに伝えるためには、分会運営サイドとしても、口頭採択に対し、可能な枠で重点を置いて欲しい。
※	国際化などと言うならば、海外の学会のようにポスターなど撮影OKにするべきだ。発表は下手くそな英語で、英語質疑も聞いてもらえない。そこまでして国際化にこだわるなら、海外のようにポスター撮影OKで、かつ、印刷版の配布を推奨するなどしてください。撮影禁止などのルールは日本式で、発表形式のみ英語にこだわる姿勢は、非常に滑稽です。
※	どのシンポジウムも満員で途中から入りにくい状況であった。
※	今回だけではないのですが部屋が狭すぎて座ることができない会場が多くありました。現在使われる神戸と横浜の会場はキャパシティ不足だと思います。米国の学会のように参加者にどのセッションに興味があるかを事前に調査して部屋割りをすることもひとつの方法だとも思います。
※	フォーラムに面白そうな企画がたくさんあったのですが、気がつかなかった上、時間が遅いこともあり、参加せず帰ってしまいました。残念です。もう少し早い時間にできないでしょうか。また、もっと宣伝して頂けたらと思います。
※	口頭発表のセッションをもっと増やして機会がほしい
※	CRISPRに関心があり聴きに行ったが、聴衆が多く、狭い会場だったので、多少参加者が多いことが予測される演題は広い会場をあてがって欲しいと思った(難しいと思うが)。
※	一部の有名な先生やラボが大きな顔をするよりももっと小さなラボや萌芽的なテーマに焦点を当てるべき。
※	シンポジウム会場が小さく、入りきれないことが多かった。シンポジウム演題もやや多すぎと感じた。似た演題が同じ時間にあり、1つを選ばざるをえなかった。もう少し厳選して、大きな会場を使っていたきたい。アプリは今回初めて使用したが、使いやすかったと思う。
※	ビールは大変よかったです
※	医学系学会に比して会費の格安感が失われつつあるので、検討して欲しい。
※	神戸はポートライナーしか無いので不便。合同開催など参加者規模が多くなるときは、パシフィコの方が望ましい。パシフィコの値上げの問題もあるでしょうが、ポスター終了時間が18:00と例年と比べて早めは良かった。気が早いですが、今後のConBioは多くの協賛ではなく、多くの共催にしてほしい。
※	毎年、学生の発表に関して不満(質の低さ等)を書いている人がいますが、そういう人はもっと小さなシンポジウムに参加すれば良いと思います。
※	研究室内で起きるハラスメントを相談できる第三者機関を作って欲しい。大学の教授などで構成されたものではなく、法律家によるものを望みます。大学内にあるハラスメントの相談部署は大学内の教員で構成されていて、相談などできない。
※	アプリの使用に挑戦したり多様なサテライトセッションを設定したり日本の科学をリードする学会だと思う。しかし日数が限られるため早期、遅い時間のプログラムがあり、全てをこなすことは不可能なうえ、介護・育児で日中しか参加できない場合は絶望的だった。YouTubeで中継できないものだろうか？(満員になってしまうセッションについても中継があるとうれしい)
※	昼休み時間を長めにとってもらえると、研究打ち合わせがしやすい。これからは朝や夜に、今回のように一般講演やシンポジウムとは指向の異なるセッションを入れるなど、1日で多くの情報が得られるようにして欲しい。時間も旅費も節約できる。
※	ポスターセッションのディスカッションが活発に行われていてとてもよかった。
※	いろいろと新しい試みに取り組みまれていて、すべてがよかった訳ではないにしても、委員のみなさまは本当にお疲れさまでした。感謝いたします。ただ若手の減少は今年もひしひしと感じました。生化学会が一足先に衰退モードに入っているが、分子生物学会もやや遅れて同じ状況になっていくであろうことを実感した。
※	Q11にも書きましたが座長制はやめるべきだと思います。ただ、シニアな人が(強制的にでも)ポスターを見て回ってディスカッションを行い、優秀ポスターを選出するというのは良いことだと思います。ポスター会場を見ても、いわゆるあまり偉い先生を見かけることがありませんが、それくらい勤労奉仕して下さっても良いのではないのでしょうか？何のための学会なのかと思います。
※	生化学会以外の学会との合同開催はすべきではない。
※	今回はシンポジウムもポスターも質の高い発表が多かったように感じます。そのため、同時間に回り切れず聞けなかった発表が多数あり残念に感じました。シンポジウムを3~4回/日(2時間)としたり、一日開催日を増やすなどの対応が必要なのではないかと感じました。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	現在の分子生物学会の規模は大きすぎるどころが有るので、生化学会や農芸化学会の様な支部大会の開催も学生さんに口頭発表経験を積むことが出来る場としてあっても良いかもしれない。また、セッションについては、研究材料ごとにまとめる、例えば植物の日・酵母の日、とかが有ると最近分子生物学会に参加していない方でも参加しやすいと思う。
※	優秀ポスターに選ばれた者ですが、当人への通知をせめてして欲しかった。他人に言われなかったら、気づいていなかったかも。
※	学会費・参加費を値下げする努力をして欲しい。無駄を省き、企業からの協賛金をより集める努力をお願いしたい。生命科学に興味を持つ高校生の参加をもっと増やせれば良いと思う。
※	ランチョンセミナーを廃止して、大会参加費を下げるべきである(ランチョンセミナーを今後も続けるのであれば、会場で実費を徴収すればよいと思う)。
※	キャリアパス企画「これでいいのか大学院教育」がひどかった。1. パネラーが勉強不足。「副指導教員について知らない」とかあり得ない。「文科省に副指導教員制度を推奨するようお願いする」と言っているパネラーがいたが、文科省は以前からそう指導してる。そんなことも知らない人間をパネラーに選ぶなんておかしい。2. 「学振研究員の数を増やす」のは重要だが、学生が不満に思っていることはそれではない。大学院教育自体についてももっと真剣に議論すべき。3. 携帯アンケートは有意義だが設問や選択肢の仕方がおかしい。「大学院はどうあるべきか」の解答選択肢に「研究だけ出来れば良い」と「広く役立つ資質を身につける教育をする」があったが、この文章で前者を選ぶわけがない。誘導質問なのか？4. 司会者が個人体験を話過ぎな上、「イヤなら変われば良い」「海外の大学院に行けば良い」と言うことにひどく落胆した。「日本の大学院教育を改善する」には何が問題で、何を改善すべきなのか、を議論する場のはずである。次回は「司会者とパネラーは充分勉強し、問題意識を明確にしてから登壇する」ことを強く望む。
※	大学で高大連携活動をしているが、ポスター発表と高校生発表の時間が重なり、高校生発表を十分に見られなかったのが残念。ネットがつながりにくかった。
※	生化学会との年会合同開催は、完全に分生と一緒にするのではなく、あくまで同時同所の開催形式でやってほしい。また分生だけでも会場に入りきれず、外のモニターで立ち見のケースが目立ったため、生化学との合同の場合は会場設営を工夫してほしい。
※	ポスター貼り付けの時間厳守を徹底してもらいたい。発表数が多いので午前中の規定の時間に貼り付けてもらわねば全てを見て回ることができない。以前もアンケートでお願いしたが、さらにマナーが悪化している。このまま悪化していくのであればペナルティーを伴う制度を検討してほしい。
※	3日間に全てが詰まっているのは日程的にやや厳しい気がした。シンポジウムが多すぎ。プレナリーモーニングセミナーは時間が早すぎ。招待演者に対しても失礼では？もっと良い時間帯に設定すべきでは？
※	生化学会との合同開催を重ねて、数年後には2つの学会を合併してほしい。同系統の大きな学会を一年に二回開催しても、両方に出張することは不可能である。年会費の負担も、大会参加費も、旅費も、手間も2倍になり、無駄とも言えるし、負担である。
※	シンポジウムが立ち見になることが多く、落ち着いて発表を聞く機会が少なかった。事前に参加人数など把握して、座席数に余裕を持たせることができないか検討してほしい。
※	他の学会も横浜なので、神戸・横浜以外の開催に期待。人数は僻地に飛べば自ずと少なくなるので札幌や福岡、新潟など比較的大きな箱があるところへ。
※	会場がコンパクトなのは良かった。
※	海外(欧米)からのシンポジストもいいが、海外(アジア圏)からの一般参加者をもっと増やして、日本の分子生物学会ではなく、アジアの分子生物学会という立ち位置を築いていければいいと思う。
※	参加人数が多いにもかかわらず、よく練れたプログラムだと思います。平日3日にしたのも良いと思います。
※	大学の実習にて1日分しか参加できずに残念。以前のように12月中旬にだいたいのがだ。シンポジウムのオーガナイザーなど、分子生物学会ではとてもいい経験をさせて頂きありがたく思います。
※	以前から知るものにとって、若々しい学会というよりも、お祭りのようになにか地に足がつかない感じがする。演題の選別は難しいがあえて行ってはどうかー発表することにステータスがでるし励みにもなる。ワークショップはこんなに必要だろうか(いつも同じグループや人がいる気がする)。その時間を、若手の口頭発表練習の機会にできないか。
※	国際化に向けた英語セッションは重要だが、発表議論レベルが犠牲になっていては学術集会として意味が無いと思う。質疑応答の「日本語も可」は良い取り組みだと思うが、日本語セッション自体を充実させてほしい。自分にとって異分野のセッションに対しては、英語だとさらに理解ができなくなる。
※	卓越研究員事業についてのランチョンセミナーについて。制度の趣旨について文科省の方から直接話を聞いたのは良かった。ただ、学会側パネリストの人選はいかがなものか。〇〇〇、〇〇〇両先生は制度についてよく理解していたし重要な問題提起をしていたと思うが、他のお二方は明らかに勉強不足だったのでは？本事業にすら興味のない人がキャリアパス委員会にいるという事実は若手研究者を暗澹たる気持ちにさせる。事業の直接的対象者である任期付きポスト等パネリストとして登壇させるべきだったと思うし、そうした人の本音をくみ上げる努力を委員会には期待したい。
※	フォーラムが夕方から夜の遅い時間帯になっていたが、お昼の時間に時間を持て余している人が沢山いたので、この時間帯にランチョン形式(スポンサーがなければ、有料でも良いと思う)で行った方が、人も沢山来てくれて良いと思った。
※	神戸はスクリーンが小さい会場が多いので、毎年横浜開催を希望
※	年会の活気を感じました。このままこのアクティビティが継続されることを願います。
※	シンポジウムのテーマで、動向がわかるので、発表がなくても参加している。並行して開催されているシンポジウムは1つしか聞けないわけで、同じような内容が重なっていると聞けない。ときどきマンネリ化したなと感じることがあるが、今年は、多角的なテーマで構成されており、面白かった。一つをじっくり聞くことができた。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者番号	意見記述
※	年々学術発表と参加者の全体的な質が落ちているような気がする。学生・大学院生の参加基準を厳しくし、学会の質を保つのも一案かと思う。
※	とても楽しく参加できました。ありがとうございました。
※	分子生物学会と生化学会の合同開催を希望します
※	日本発のHigh ImpactなJournalを作る活動を行なって欲しい。
※	ポスター会場でのミキサーに関して、アルコールは反対です。企業がスポンサーとなったコーヒーやソフトドリンクそしてスナックのサービスの導入はいかがですか？分子生物学会には伝統的に懇親会はありませんが、企業がスポンサーとなったレセプションを導入し、アルコール他をふるまうのはいかがでしょうか？
※	若い人に限定したセミナーやシンポジウムがあれば良い。いつも同じような人が発表しているので、つまらない。プレゼンが一般的に下手で、スライドも見づらいので、ガイドラインを設けてほしい。文字は少なくとも24pt以上とか、下手な人は座長が途中で止めても良い、とか。
※	最近、会場が横浜・神戸に固定してしまっているのは、是非別の場所での開催をお願いします。
※	分生は捏造問題を諦めたのか？そう感じざるをえません
※	分子生物学会年会はいろいろな分野の話が聞けて面白いです。聴衆があふれてしまって、立ち見でも聞けない講演が見られたので、落ち着いて講演が聞けるようにしてほしいです。(別室で中継など)
※	今年はオールシンポジウムで良かったと思う。厳選されたシンポジストたちによる発表を腰を据えてしっかり聞いて大変勉強になった。例年、ワークショップや一般口頭発表などがあるが、これらは場合によっては付け焼き刃の構成であったり、発表時間が短すぎる中に多くのことを話過ぎてむしろわかりにくい形式になっていたと思う。学生のための口頭発表の場として位置づけるのであれば、会期を例年通り1日伸ばして4日間にし、最終日1日のみを一般口頭発表に当てても良いかと思う。今回は3日間で密度が濃いシンポジウムでその点は大変良かった。
※	分子生物学的な解析手法は、色々な所で活用されており、あえて他学会との合同会を開催する必要はないのでは？
※	ビール無料配布を今後も検討して欲しい。ランチョンセミナーが長引いて、午後のセッションの開始に影響が出そうだったので、検討して欲しい。
※	シンポジウムの会場に入れないうところがあると思えば、ガラガラのところもある。もっと人の出入りを考えるべきだと思う。複数のシンポジウムが聞きたいときがある。各会場で進行の遅れがないようにし、また、各シンポジウムの発表時間を揃え、発表間で席を立てるような工夫がほしい。
※	規模が大きい分、旧知に出会う機会も多い発表・展示も多いので、有意義な面はあるものの、会場が広すぎて移動に時間を要したり、各講演会場が溢れかえって肝心の講演を聴けないというデメリットがあり、見直しても良い時期に入っているのではないかと思います。
※	関東地方で開催するのは、横浜(南関東)だけに限らない方がよいと思う。千葉、埼玉、茨城からの交通の便が悪いので、東京や埼玉での開催も考えてほしい。関西地方での開催も、大阪、京都などでの開催もあってよいと思います。
※	夜まで食い込まない方がよいと思う。疲れるので。
※	1. ○○○先生のお話が直に聞けて本当に良かったです。2. 総会と聞きたいランチョンセミナーが重なり、ランチョンセミナーが聞けなかったのが残念でした。有り難う御座いました。
※	ランチョンの抽選は全員が少なくとも1つは当たるようにした方がよいです。3つ当たる人も居れば1つも駄目な人も居るといのは、フェアでないと思います。今回人気のあった立ち見の多いセッションは次回は大きな部屋にして欲しいです。前に人が座るとスライドが見にくくなるので、何か良い方法があれば良いのにとと思います。
※	よかったです。
※	シンポジウムがつまらなかった。もう少しチャレンジングな企画もあっては良いのではないかと。どこの学会にもいそうな先生のレクチャーはお腹いっぱいです。
※	分子生物学会の規模になると仕方がないのですが、どうしてもシンポジウム会場が狭いため、入口から覗いて会場がいっぱいとみると、すぐにあきらめて参加者が散って行かれる感を受けました。
※	シンポジウムのオーガナイザーが毎回かなり重複している。一般演題を増やしたほうが学会自体は盛り上がると思う。
※	かなり大きな学会で準備等を担当されている組織委員の方が大変だと思います。組織委員の方のおかげで、研究の発表や発展ができていますので、感謝致します。
※	午後、立ち見が多かったり、聴衆があふれている会場があったので、立ち見解消のため、立ち見が多かったシンポジウムはどれか、チェックして、次年度に活かすことが出来ればよいと思います。とくに「本当におもしろい生き物の分子生物学」「ゲノム編集応用の最前線」はあふれかえっていて、来年やるならもっと大きい部屋を割り当ててを検討したほうがよさそうでした。逆に午前のシンポジウムでは大きな部屋でかなり席が余っている会場もありました。2年前類似のテーマのシンポジウムも同じ部屋で、やはり席は余り気味でした。単純に時間帯の関係かもしれませんが、伝統的に大部屋を割り当てているが聴衆が減っているテーマがあるのではないかと思います。自分が興味のある分野なので寂しいですが、一方でどこかで立ち見が起きているなら大きい部屋を譲った方がよいと思いました。やりにくいとは思いますが、ご検討いただければ幸いです。
※	ポスター会場でのビール提供は、もう少し考えて企画して欲しい。中止しても良い。ビールを求める人が長蛇の列を作りポスター発表の邪魔になった。飲酒しながらポスター討論の座長をしている人がいた。モラルの問題でもあるが、提供時間を遅い時間に設定する、提供場所をポスターのパネルから離すなど、運営側の工夫をお願いしたい。
※	3日間の日程では、参加するには少々辛い。元のように4日間に戻してほしい。
※	今回の時間割はとても良かったと思います。
※	ポスターが素敵でした。家族にも好評でした。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者 番号	意見記述
※	お疲れさまでありました。感謝しております。
※	ポスター会場の入り口の外でフォーラムのちらし(案内状)を配っていたところ、警備員に規制された。学会関係のちらしを会場の外で配ることは一般に行われている。たとえば、京都国際会議場で開催された生化学会では、地下鉄の出口から会場入り口までの通路でランチョンセミナーのちらしを配る光景はよく見られる。神戸国際会議場でもそうである。営利目的でないのに何が問題なのか？特にフォーラムは発表抄録が掲載されないので、ちらしで知らせるしか方法がない。今回、一部の人にはちらしを配布できたので、それを見て来場してくれた結果、前回のフォーラムより聴衆は多かった。警備員に中断されなければもっと多くの聴衆が見込めたと思われる。主催者はこの責任をどのようにとってくれるのか？
※	座る場所をもう少し増やして欲しい。以前よりも増えているが、スケジュールや抄録のチェックには、wifiが十分入って座ってできるところが欲しい。講演会場ではwifiが廊下でないと使用できないので、廊下に座るところを増やして欲しい。現在の座るところは大体占拠されている(ちょっと検索、という感じでなく、腰を据えてそこで仕事をしている人が多い印象)。
※	ポスターセッションですでに酒が入っているのはいかがなものか？
※	3日の開催はよかったですね。経費的にも、3日開催なら初日と3日目に出席したいセッションがあってもなんとかなりますし。